

はくさん せ なみ

白山瀬波の会 (石川県白山市)

はくさんし

～ 消滅危機に直面していた地区から発信する 民間主導の里山再生 ～

●活動の概要

かつて炭焼きで暮らしていた豪雪地帯の谷間の瀬波地区は、急激な人口減によって地区消滅の危機が懸念されていた。

だが他に誇れる地域資源＝豊かな自然や景観などの地域資源を活かした交流人口の拡大によって、その流れに歯止めを掛けたいと考えた地元有志が会を設立。

その理念に共感した企業と連携して、廃道となった登山道の再生、キャンプ場や川遊び場の整備、地区伝統の炭釜の復活等「この地区を訪れて良かった」と思ってもらえる体験の場づくりに注力。

約10年の地道な活動の結果、現在ではキャンプ場周辺への訪問者年間約8千人、うち登山道整備によって出現したカタクリの開花時期には約3千人来訪し、また空き家の紹介や地元野菜の販売を行うなど、地域の持続可能性の拡大に繋がっている。



毎年200人近くの親子が集うキャンプフェスティバル



稚魚(カジカ)の放流による保護活動

●選定理由

地元の森林環境の保全再生と交流人口の拡大を通じて、地域の持続可能性の向上を図っている。

特に、稼働しないまま放置されていた自然体験施設の再生や活用により、雇用創出にも繋がった点、登山アプリへの掲載等、積極的な情報発信により、地域外の訪問者に希少植物や里山の価値を再確認させる機会を提供した点などは、単に当該地区の再生や持続可能性の拡大だけではなく、より広範な価値創造にも繋がっている点も評価できる。

官の補助金頼りでなく民間の力で里山が再生した事例は珍しく、新規事業分野の開拓の一貫として、また、郷土愛やメセナだけでなく、CSV（共通価値の創造）の一貫として「地域づくり」に関心がある企業等は潜在的に各地にあるとみられ、そのような企業・団体等との連携による「地域づくり」の優良事例としても紹介する価値がある。

企業等との連携の結果、有望な地域資源が再発見・再注目され、寂れる一方だった里山に人が集まり、更に高齢者の雇用や生きがいにも繋がっていることは、今後、各地に波及して欲しい事例であり、ひいては全国的に里山の価値が再確認されるきっかけにもなり得るものと考えている。

